

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
リズム運動 Rhythmical Movement		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
実技	1	必修	手島 史子	
概要				
<p>新学習指導要領の内容を踏まえ、各学年の運動発達段階に応じた表現運動の指導について認識するとともに基礎的なダンスの理論を理解する。</p> <p>また、日本の民族舞踊などの踊りの継承について考え、実技とともに歴史的な背景や継承の意義を追求し、踊り指導をする上での基礎を学ぶ。さらに、踊りを媒介にグループで共同創作する場を設け、豊かな表現方法の追求と、踊りの評価の意味について学ぶ。</p>				
到達目標				
<p>(1) 民族舞踊である「みかぐら」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。</p> <p>(2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解する。</p> <p>(3) 模擬授業を通して、表現運動の基本的な指導法を修得する。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションーリズム運動の魅力、様々な表現・踊りの特徴についてー 2 今日のダンス・踊りを取り巻く背景と教育の中のダンス 3 日本の伝統文化「みかぐら」について学ぶー地域の神楽を知るー 4 「みかぐら」の基本の動き①ーわたり・めぐりー 5 「みかぐら」の基本の動き②ーあしかけ、大ジャンプ、すさりー 6 グルーピングおよび「場」の構成について 7 「みかぐら」で使用する扇の製作 8 基本練習とグループ練習①ーペア学習効果について・発表ー 9 基本練習とグループ練習②ー踊りの連続性についてー 10 「みかぐら」の発表と評価（発表会） 11 「ソーラン節」の学習ー導入ー 12 「ソーラン節」の意味と基本の動きーろこぎー 13 「ソーラン節」の基本の動きー1番・2番ー 14 模擬授業 その1（導入から動きの指導） 15 模擬授業 その2（評価と振り返り） 				
テキストおよび 参考文献	小学校学習指導要領 第9節 体育 授業時に随時配布資料			
メッセージ など	小学校教諭二種免許状：必修科目			

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 民族舞踊である「みかぐら」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。	歴史について理解し、基本動作を修得し、自分なりの表現をつけて踊ることができる。	ほぼ基本動作を修得し、前に出て踊ることができる。	多少の間違いはあるが、基本動作を覚え、踊ることができる。	部分的にできても、全体を通して踊ることができない。	実技試験	40%
(2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解する。	クラス全体での発表会の構成がイメージでき、提案できる。	①部分的な踊りの「発表」までの練習時間がわかり、また、再検討することができる。 ②道具の作り方について理解している。	①ペア学習で方法・見る視点が変わる。(良いところや違いがみえる) ②他と難しいところを練習する方法を探し、考えることができる。	①横一列に並んで踊り、前後を時々交替して踊る意味が分かる。	レポート	20%
(3) 模擬授業を通して、表現運動の基本的な指導法を修得する。	①わかりやすい言葉で、適度な声で指導することができる。 ②良い部分、できる部分の評価ができる。 ③「わかる」ために、重要な動きや言葉をつけるなどして伝えることができる。	①指導を受ける人がわかりやすい指導者の向きについて考え、その向きで教えられるように努力できる。 ②指導案を見ないで、指導内容を進めることができる。	①部分的な踊りの指導案を計画することができる。 ②指導案をみながら、要点を意識しながら指導することができる。 ③動き一つ一つを丁寧に教えることができる。	①全体に聞こえる声で模擬授業ができない。 ②指導案の書き方を参考資料等で調べながら書くことができない。	指導案づくり・模擬授業	40%